

8.

文献収集・資料整理・
公開

▶ ジェンダー研究所収蔵文献・資料概要

史料電子化プロジェクト始動

40 年以上にわたる文献・資料の収集

1975 年、本学に「女性文化資料館」が設置された。日本の教育機関で初めて、女性に関する文献・資料を収集し、研究に供することを目的とした資料館であり、ジェンダー研究所の起源である。

この資料館が発展的改組を重ね、今日のジェンダー研究所へと至る間、女性学・ジェンダー研究の文献・資料の収集は絶え間なく続けられ、現在ジェンダー研究所は、女性に関する膨大な知の集積ともいえる蔵書を有する。これらは、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外から OPAC（Online Public Access Catalog）で検索でき、手続きを経れば学外の者も利用可能である。

2017 年度、本学附属図書館は大規模改修と増築を行い、2018 年度 4 月にリニューアルオープンする。美しく整備された館内で、より利便性の高い図書サービスの提供が始まる。

日本におけるジェンダー研究創成期の史料の“再発見”

本学附属図書館大規模改修の際、地下書庫の整理が進められ、ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（1996 年設立）、女性文化研究センター（1986 年設立）、女性文化資料館（1975 年設立）の、事業活動記録が大量に保管されていたことが明らかになった。

ジェンダー研究所は、女性文化資料館時代から今日に至るまで、学際的、国際的、かつ先進的なテーマで、様々な研究会やセミナー、国際シンポジウムを開催してきた。地下書庫で“再発見”されたのは、これらの事業活動の記録である、紙媒体資料、ネガ・プリント写真、カセットテープ録音、ビデオテープ録画といった、アナログ形態の生データである。

ジェンダー研究所が、その創立時から、日本の女性学・ジェンダー研究を牽引する役割を果たしてきたことを鑑みれば、それらの生データが貴重な研究資産であることは明らかである。2017 年度、ジェンダー研究所は、「IGS 史料電子化プロジェクト」を始動した。地下書庫に眠っていた日本におけるジェンダー研究創成期の史料を電子化し、デジタルアーカイブのかたちで後世に残すことで、本学ならびに日本のジェンダー研究のさらなる発展に寄与することを目指す。

■IGS 史料電子化プロジェクト 2017 年度成果概要

プロジェクト初年度である 2017 年度は、史料の全体像の把握から着手した。1978 年 2 月 8 日開催の女性文化資料館定例研究会「山川菊栄と女性解放思想」音声データ（カセットテープ）、1989 年 7 月 17 日開催の女性文化研究センター月例研究会「Problem of Homeless Children in India」ネガ・プリント写真など、膨大な量の生データを整理し、リスト（テーマや参加研究者名などの基礎データ）作成を開始。デジタルアーカイブ化の第一歩を踏み出した。



■附属図書館専用書架での蔵書貸出・閲覧

ジェンダー研究所蔵文献（書籍約 25,000 冊、雑誌約 340 種）は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外の学生や研究者に利用されている。

《図書館利用案内》

○開館日

- ・月～金 8:45～21:00 （授業のない日は 17:00 まで）
- ・土 9:00～17:00 （夏・冬・春期休業期間中は閉館）
- ・日 12:00～17:00
（毎週ではありません。図書館カレンダーでご確認ください）

○閉館日

- ・日曜日、国民の祝日、年末年始、大学夏季一斉休業日
- ・夏・冬・春期休業期間中の土曜日
- ・蔵書点検
- ・微音祭当日、創立記念日、入学試験日当日、卒業式 等



■蔵書・研究者に関する情報提供

附属図書館蔵文献・資料のほかに、ジェンダー研究所内にて、購入雑誌・寄贈雑誌の最新号、研究所の過去の成果刊行物、事業の記録、所属研究者執筆の書籍のほか、全国のジェンダー研究施設や男女共同参画団体の定期刊行物を閲覧することができる。

資料閲覧対応のほか、研究者及びジェンダーに関心を持つ方々に、これらの文献や資料、研究所に蓄積された知識を広く活用してもらうため、メールや電話による外部からの問い合わせ、訪問依頼にも随時対応している。



■お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでの資料公開

<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでは、本学を卒業し、女性の先駆的研究者として活躍した保井コノ、黒田チカ、湯浅年子、辻村みちよの研究業績をまとめた資料目録などが公開されている。

これらの資料は、女性文化資料館時代の1981年の文部省特定研究「女性高等教育とその成果に関する総合的研究」における2つのプロジェクト、「III 婦人研究者の活動状況に関する調査研究—自然科学分野を中心に—」「IV 女性文化に関する文献・資料の収集及び調査研究」の中で、それぞれのご遺族の協力を得て収集した遺品のうち、研究関連のものを整理し、長い時間を掛けて目録化したものである。

目録化は本研究所の前身機関のプロジェクト成果であるが、これを大学の歴史資産として広く公開するよう、2007～2009年にデジタルアーカイブズ化された。現在、資料現物は理学部内に設置された「資料室」部屋名要確認で保管され、大学本部の図書・情報課 情報基盤係が窓口となって資料閲覧や貸出等の依頼に応じている。



■2017年度新規収蔵図書・資料（敬称略）

2017年度は、購入・寄贈等により以下の書籍・資料が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』（著者名）〕

村田晶子『なぜジェンダー教育を大学でおこなうのか：日本と海外の比較から考える』（村田晶子、弓削尚子編著）

塙書房『日本古代女帝論』（義江明子）

あごら九州『あごら 雑誌でつないだフェミニズム 第一巻 斎藤千代の呼びかけと主張Ⅰ』（あごら九州編）

あごら九州『あごら 雑誌でつないだフェミニズム 第二巻 斎藤千代の呼びかけと主張Ⅱ』（あごら九州編）

あごら九州『あごら 雑誌でつないだフェミニズム 第三巻 人と人を繋いで 雑誌『あごら』の四十年』（あごら九州編）

ジェンダー研究所『アメリカ映画のイデオロギー：視覚と娯楽の政治学』（細谷等、中尾信一、村上東編著）

ジェンダー研究所『IGS Project Series 8 特別招聘教授プロジェクト特集：エリカ・バッフエリ』

ジェンダー研究所『IGS Project Series 9 IGS Seminar (Reproductive Area) 2016：The Ethics of Prenatal Testing』

ジェンダー研究所『IGS Project Series 10 国際シンポジウム：金融化、雇用、ジェンダー不平等』

ジェンダー研究所『IGS Project Series 11 IGS セミナー報告書：訳者と語る『京城のモダンガール：消費・労働・女性から見た植民地近代』